

**製品名: OY-TES-1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab15559**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	61kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ACRBP
別名	ACRBP; Acrosin-binding protein; Cancer/testis antigen 23; CT23; Cancer/testis antigen OY- TES-1; Proacrosin-binding protein sp32
遺伝子 ID	84519.0
SwissProt ID	Q8NEB7
免疫原	抗血清はヒト ACRBP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 181-230

**背景**

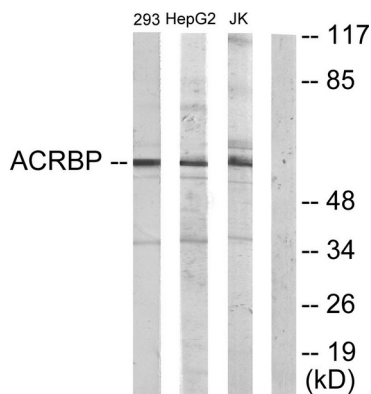
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、マウス、モルモット、ブタに見られるプロアクロシン結合タンパク質 sp32 前駆体に

類似しています。このタンパク質は精子先体中に存在し、プロアクロシンへの結合タンパク質として機能し、先体マトリックスにおけるアクロシン酵素原のパッケージングと凝縮に関与すると考えられています。このタンパク質は癌/精巣抗原ファミリーに属し、免疫原性があることが分かっています。正常組織では、この mRNA は精巣でのみ発現しますが、膀胱、乳房、肺、肝臓、結腸など、様々な腫瘍種で検出されます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]機能: プロアクロシンとの会合を介して、アクロシン酵素原の先体マトリックスへのパッケージングおよび凝縮に関与する可能性がある。、PTM: 受精能獲得精子ではチロシン残基がリン酸化されている。、PTM: N 末端はブロックされている。、細胞内局在: 精子の先体においてプロアクロシンと共局在する。、サブユニット: プロアクロシンに結合する。、組織特異性: 正常組織では精巣にのみ発現する。膀胱がん、乳がん、肝臓がん、肺がん、結腸がんなど、幅広いがん種で発現する。、

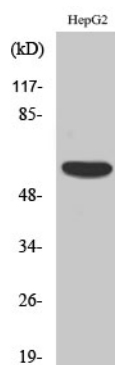
## 研究分野

タグと細胞マーカー; 細胞型マーカー; その他の細胞型; がん; 腫瘍免疫学; 腫瘍関連抗原

## 画像データ



HepG2、Jurkat、および 293 細胞のライセートを ACRBP 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



OY-TES-1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析